

第8回矢白別演習場・風蓮川水系土砂流出対策等検討委員会  
議事要旨

1. 開催日時：平成26年3月7日（木）10:00～12:00

2. 開催場所：北海道防衛局 札幌第3合同庁舎 1階 共用会議室

3. 出席者

【委員長】

新谷 融 （NPO法人環境防災総合政策研究機構北海道支部 支部長）

【委員長代理】

黒木 幹男 （NPO法人環境防災総合政策研究機構北海道 専務理事）

【委員】

小川 巖 （酪農学園大学環境システム学部 教授）

川村 洋司 （北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場 研究職員）

立澤 静夫 （別海漁業協同組合 専務理事）

眞山 紘 （北海道栽培漁業振興公社 技術顧問）

丸谷 知己 （北海道大学大学院農学研究院 教授）

渡邊 昇 （別海町郷土研究会 会長）

【事務局】

北海道防衛局

別 海 町

4. 議事の概要等

矢白別演習場の風蓮川流域で実施した、環境モニタリングの結果、土砂生産源対策全体計画及び実施状況並びに効果検証結果、委員会終了後のモニタリング計画、について事務局より説明を行い、以下のような議論が行われた。

○環境モニタリング調査結果

- ・ イトウに着目すれば、ダムのスリット化が環境保全の役割を果たしたといえる。
- ・ フクドジョウが確認されている。また、14 cm以上のカワシンジュガイが観測されており、これは推定年齢70～80歳であることから、演習場内は自然が保護されている。
- ・ ウチダザリガニ（外来種）が確認されているが、これは近年、駆除すべき外来種と位置付けられていることから、今後の環境モニタリングでも注視し、何らかの措置を講じていく必要がある。
- ・ 濁度調査は、定性的な評価を行っているが、定量的な評価も重要である。しかしながら、本評価は限られたデータにより行っているため、その旨を記載すべき。
- ・ 濁水の発生時期を分析することは、生産源対策の対応方針への反映が可能になると考えられる。

○土砂流出対策

- ・ 生産源対策の効果は、個別検証を行っているが、将来的には全体での検証が必要である。
- ・ 生産源対策も直接的な施設等による効果だけでなく、植生の回復など土砂を出来る限り出さない方策について明確に示してほしい。

○その他

- ・ 討議については今回の委員会を持って終了とし、次回（3/27）は最終調査報告書を取りまとめ、委員会から提言を行うこととする。